

まめなかなが

第53号

郡上市青少年育成八幡地域会議

令和8年3月25日発行

AI時代の学び — 安全安心を土台に



AI時代の学び

安全安心を土台に可能性を広げる

勉強、仕事、インフラ、この世にあるものが大きく変わるAI（人工知能）時代、
子供たちの学習はどう変わっていくのか？

青少年育成委員として、保護者や地域の大人の方々に向けた啓発は非常に重要だと考えます。

AIはもはや「遠い未来の技術」ではなく、子供たちの日常に深く入り込んでいます。

【相談窓口】

児童相談所全国共通ダイヤル 189

中濃子ども相談センター tel: 0574-25-3350

郡上市役所・健康福祉部・児童家庭課・・・家庭・子供・DVなどの相談

郡上市八幡町島谷 228 番地 tel: 0575-67-1817

保健福祉センターやまつつじ・・・保健師による家庭内の相談・面談

郡上市大和町徳永 618 tel: 0575-88-4511（月～金曜日 8時30分～17時15分）

普及状況



83.1%

10代～20代が
生成 AI を経験

2026年 LINE リサーチ

教育効果



課題の質向上

AI 活用で課題の質は向上するが
試験成績とは
必ずしも連動しない

2026年 OECD 報告書

教育インフラ



90% 以上

全国の高校が
ICT 端末を完備

2026年 旺文社調査

1. なぜ今、AI 活用を考えるのか（現状と基礎知識）

データで見る AI 活用の現在地

2026 年現在、若年層（15～24 歳）の生成 AI 利用率は 80% を超えています。もはや AI は遠い未来の技術ではなく、日常の「調べもの」や「学習サポート」に欠かせないパートナーです。

AI 活用の光と影 ～生成 AI を学習で使用する際のメリット・リスク～



メリット



個別最適化学習

AI が理解度に合わせて問題の難易度を調整し、
つまずきやすいポイントを解説してくれる。



24 時間いつでも質問できる

先生や親がいない時間でも疑問をすぐ解決でき、
学習の停滞を防げる。



創造性のサポート

文章作成・アイデア出し・イラストなどで
「壁打ち相手」として使え、発想を形にしやすい。

リスク



考える力の低下



答えをすぐ得られるため、
自分で考え試行錯誤する機会が減る可能性がある。

誤情報（ハルシネーション）



AI が事実でない内容をそれらしく答えることがあり、
情報の確認が必要。

著作権・プライバシーの問題



個人情報を入力してしまったり、
著作権を侵害する使い方をしてしまうリスクがある。

2. 大人たちの役割と AI 活用チェックリスト

大人が意識すべき「3つのポイント」

①「問いを立てる力」を褒める

AIは答えをくれますが、良い問い（プロンプト）を作るのは人間です。

②「正解」よりも「プロセス」

AIの結果をどう疑い、どう自分の意見を加えたかを評価しましょう。

③「実体験」を死守する：

AIが何でもシミュレーションできるからこそ、冷たい水に触れ、下駄の音を聞く「本物」の価値が最大化します。

親子でアップデート！～安心安全のための5つの約束～

AIは便利な魔法の杖ではなく、使い手によって輝きが変わる「知能の道具」です。ご家庭で以下のポイントを話し合ってみませんか？AIを使う前に、まずはこのリストと一緒にチェックしてみましょう。

- ✓ **個人情報**を教えない：名前や住所、学校名、家族の秘密を教えない
- ✓ **もっともらしい嘘**を疑う：AIは自信満々に間違えることがある
- ✓ **AIの答えを自分のものにしない**：あくまで相談相手として使う
- ✓ **思いやりを持って使う**：AIに対しても、AIを通じた対人関係でも人を傷つけるような言葉を使わない
- ✓ **困ったら大人に相談**：変な回答や怖い思いをしたらすぐに先生や親に話す

3. 「一歩先の未来」

2030年の学習風景（未来予測とフィジカルAI）

～子供たちの当たり前になる3つの変化

人からの指示待ちAIから、AI自らが目標を理解し、サポートに動く「エージェントAI」の時代が来ます。またAIは画面を飛び出し、私たちの身体や現実空間と融合する「フィジカルAI」として進化すると考えられます。

24時間伴走する

「パーソナルチューター」

AIが表情や声から「混乱」や「退屈」を察知。過去の学習ログから、数年前のつまずきポイントまで遡ってナビゲートします。

教科書を飛び出す

没入型（イマーシブ）学習

VR/ARとAIが融合。歴史上の人物にインタビューしたり、仮想ラボで安全に化学実験を繰り返したりすることが可能になります。

身体知を伝承する

フィジカルAI（ロボティクス）

センサー付きウェアを着用し、名人の動きを振動や力加減で体に直接伝える「ウェアラブル・フィードバック」が登場。伝統芸能やスポーツの習得が劇的に変わります。





郡上の伝統 × AI (地域探究の実践)

子供たちの素朴な疑問、思考を AI とともに深掘りします。郡上の豊かな自然と伝統は、AI という「顕微鏡」を通すことで、より深い学びの場へと変わります。例えば、フィールドワークの相棒としての AI ロボットを活用、水中ドローンで吉田川の水中をリアルタイム分析する。農業ロボットが伝統的な農作業を AI と共に体験し、プログラミングと労働の尊さを同時に学ぶなど、多岐にわたる活用が考えられます。

例：【自由研究テーマ案 1】 郡上おどりの美しさを AI で科学する

内容：スマホで踊りを撮影し、AI (ポーズ推定) で骨格の動きをデータ化。「名人の踊り」と「自分の踊り」の重心移動やリズムの差を可視化します。

問い：「400年前の人たちは、なぜこのリズムを選んだのだろうか？」

例：【自由研究テーマ案 2】 郡上の水の音を AI で聴き比べ

内容：吉田川や水路など水の音を録音し、AI で周波数を分析。場所や天候による音の違いから、地域の暮らしへの影響を考察します。

問い：街を歩けば聴こえる水の音、もしこの音がなくなってしまうたら、郡上の暮らしはどう変わるだろう？」

【編集後記】

■今回の広報誌では、郡上の伝統と未来をつなぐ新しい学びの形を提案しました。■テクノロジーの進化は目覚ましく、AI は指示を待つ道具から、自ら目標を理解して動く「エージェント AI (自律型 AI)」へと進化しています。2030 年頃には、AI が子どもたちの学習進捗を管理し、最適な教材を探したり、必要に応じて専門家とつないだりする学習の秘書のような存在になるかもしれません。■一方で社会では、多くの仕事が AI に置き換わり、「人がいない時代」とも言われる厳しい側面も見え始めています。■しかし、だからこそ人間にしかできないことがより大切になります。■それは、「何のためにその技術を使うのか」を考え、正解のない問いに向き合うことです。■AI 時代に子どもたちに必要なのは、AI の答えの真偽を見極める力と、それをどう活用するか判断する力です。■子どもが AI を使っているのを見かけたら、「何が出た？」ではなく、「それ、本当かな?」「あなたならどう直す?」と問いかけてみてください。その対話こそが、子どもたちの思考を育てる大切な学びになります。■テクノロジーは、私たちが大切にしてきた郡上らしさをより深く知るための力にもなります。■未来にワクワクしながら学び続けること。大人の皆さんも、子どもたちと一緒に新しい学びの旅を楽しんでみませんか。

まめなかな新聞編集長：後藤正和